

調剤内規

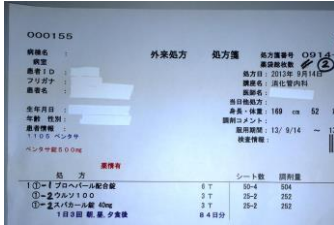
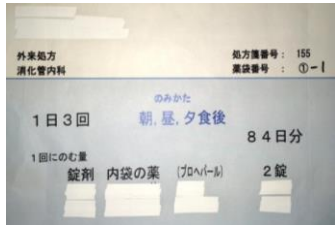
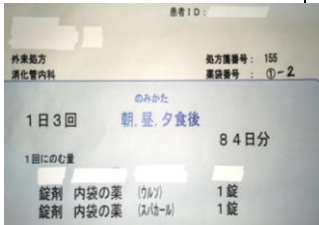
(保険薬局向け)

錠剤.....	2
【1】 計数調剤（内用）	2
散剤.....	4
【2】 散剤秤量	4
【3】 散剤特殊指示（ニュウトウキン、フケイナシ、テブンポウ）	5
【4】 錠剤粉砕	6
内用液剤	7
【5】 単味かつ原液で投与する液剤とその調剤	7
【6】 希釈する液剤の調剤	8
【7】 特殊な調剤方法の液剤.....	8
【8】 ファンギゾンシロップの払い出し方法	9
外用剤	10
【9】 外用薬の処方箋表記	10
【10】 計数調剤(外用軟膏)	11
【11】 計数調剤(外用液剤).....	11
【12】 外用液剤約束処方	12
その他	13
【13】 在宅自己注射製剤.....	13
【14】 個別に注意が必要な薬剤	13
【15】 付属品を要する薬剤の調剤	14
【16】 疑義照会	14

藤田医科大学病院 薬剤部

2023年7月改訂

錠剤

【1】計数調剤（内用）																								
番号	項目	具体的内容																						
1	薬袋	<ul style="list-style-type: none"> • Rp.ごとに別薬袋を基本とする。 • 同一Rp内の複数の薬剤は、内袋にそれぞれ入れ、薬袋に入れる。 • 内袋に入らない場合には、薬袋を再発行し、薬袋番号を「-1、-2」とし、別薬袋にて払いだす。この際、処方箋の薬袋総数も書き換える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>処方例</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬袋サンプル 1</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬袋サンプル 2</p> </div> </div>																						
2	通常の薬剤取り揃え	<ul style="list-style-type: none"> • 特に指定のない場合には、錠剤はヒートで調剤する。瓶に入ったバラ錠の調剤時は、バラ包装用ビニール袋に入れる。 • 1瓶以上の払い出し総数の場合には、瓶に入っている錠剤はそのまま払い出し、端数のみ袋で払い出す。その際には、「ビニール袋に入っている薬からお飲みください」の紙を入れる。 • 服用1回あたりの錠数が半錠を含む場合で、バックしない場合には、バラ包装用ビニール袋を添付する。 																						
3	分割指定調剤	<ul style="list-style-type: none"> • 割線のある錠剤で、製剤的に安定な場合には分割入力ができる。ただし、院内で2規格採用されており、高用量製剤の0.5錠分が低用量製剤の整数錠で処方可能な場合、高用量製剤に割線がある場合も「分割不可」の設定とする。 <p>■割線があるが、分割不可の設定をしている薬剤</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>低用量製剤の規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>チラーヂン S 錠 50 μg</td> <td>25 μg</td> </tr> <tr> <td>タリージェ OD 錠 10 mg</td> <td>5 mg</td> </tr> <tr> <td>ドネペジル OD 錠 5 mg</td> <td>3 mg ※1</td> </tr> <tr> <td>バクタ配合錠</td> <td>バクタミニ配合錠 ※2</td> </tr> <tr> <td>フェブキシostat錠 20 mg</td> <td>10 mg</td> </tr> <tr> <td>フロセミド錠 40 mg</td> <td>20 mg</td> </tr> <tr> <td>マイスリー錠 10 mg (院外専用薬)</td> <td>5 mg</td> </tr> <tr> <td>ミチグリニド Ca・OD 錠 10 mg</td> <td>5 mg</td> </tr> <tr> <td>メインテート錠 5 mg</td> <td>2.5 mg</td> </tr> <tr> <td>ラツダ錠 40 mg</td> <td>20 mg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 ドネペジル OD 錠の低用量製剤は0.5錠分に相当しないが、5 mg錠0.5錠の必要性が低いと考えられるため分割不可に設定。</p> <p>※2 バクタ配合錠 1錠＝バクタミニ配合錠 4錠</p>		低用量製剤の規格	チラーヂン S 錠 50 μg	25 μg	タリージェ OD 錠 10 mg	5 mg	ドネペジル OD 錠 5 mg	3 mg ※1	バクタ配合錠	バクタミニ配合錠 ※2	フェブキシostat錠 20 mg	10 mg	フロセミド錠 40 mg	20 mg	マイスリー錠 10 mg (院外専用薬)	5 mg	ミチグリニド Ca・OD 錠 10 mg	5 mg	メインテート錠 5 mg	2.5 mg	ラツダ錠 40 mg	20 mg
	低用量製剤の規格																							
チラーヂン S 錠 50 μg	25 μg																							
タリージェ OD 錠 10 mg	5 mg																							
ドネペジル OD 錠 5 mg	3 mg ※1																							
バクタ配合錠	バクタミニ配合錠 ※2																							
フェブキシostat錠 20 mg	10 mg																							
フロセミド錠 40 mg	20 mg																							
マイスリー錠 10 mg (院外専用薬)	5 mg																							
ミチグリニド Ca・OD 錠 10 mg	5 mg																							
メインテート錠 5 mg	2.5 mg																							
ラツダ錠 40 mg	20 mg																							

		<ul style="list-style-type: none"> 分割入力された場合、服用1回あたりの錠数が半錠を含む場合には、1回分ずつパックする。
4	一包化調剤	<ul style="list-style-type: none"> 製剤的に安定と判断した製剤に関しては、一包化入力ができる。 この場合、該当する処方箋内の錠剤・カプセル剤はRpをまたいでワンドーズパックする。 1種類のみの場合でも、ワンドーズパックする。 以下の薬剤は一包化することを避けることとする。 <p>メトホルミン・メトアナ・イニシク (院外専用薬)・エクメット (院外専用薬) ⇨オルメサルタン OD・レザルタス カモスタット⇨オルメサルタン OD・レザルタス 炭酸水素ナトリウム・マグミット⇨マドパー・ラニラピッド・ジゴキシン</p>
5	不均等指示調剤	<ul style="list-style-type: none"> 服用錠数が服用時間で不均一な場合は、「不均等指示」により入力する。 薬袋に服用タイミングごとに服用錠数が記載される。 調剤時には、総量を薬袋に入れる。 <p>処方例)</p> <p>【一般内服 (食事タイミング指定)】 Rp マドパー配合錠 9T 分4 (朝、昼、夕) 食後、眠前 不均等 (2.5T/ 2T/ 2.5T/2T)</p> <p>【時間指定】 Rp マドパー配合錠 9T 分4 (8:00/12:00/16:00/20:00) 不均等 (2.5T/ 2T/ 2.5T/2T)</p> <p>*当院のシステムでは、用法が回数指定の場合、各服用タイミングでの用量の不均等指示 (カルテ上で入力) ができない。そのため1回服用量が割り切れない値になり、粉碎指示を入れないとオーダーできない。 →現状ではシステムの変更は難しいため、疑義照会にて対応をお願いします。</p> <p>例) 【回数指定】 Rp マドパー配合錠 9T 分4 (1日4回) 粉碎 (コメントにて) 2.5 : 2 : 2.5 : 2</p>
6	別包指示調剤	<ul style="list-style-type: none"> 当該薬品をRp.毎にパックする。
7	混合指定調剤	<ul style="list-style-type: none"> 指定された当該散剤を混合する。

散剤

【2】 散剤秤量		
番号	項目	具体的内容
1	秤量時の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳鉢・乳棒は1回使うごとに掃除機あるいはガーゼで掃除を行う。（ガーゼは1回で廃棄） ・ 秤量誤差は± 0.1 gとする。ただし、1薬品ごとの秤量総量が1 gに満たない場合、最少秤量単位が0.1gの場合には秤量誤差なしとし、最少秤量単位が0.01gの場合には、± 0.02gとする。 ・ 1日量が小数点第3位で入力があった場合 賦形を必要としない用量の場合（賦形不可の場合も含む）⇒測る全量から小数点第3位を切り捨てて調剤する。 賦形を必要とする用量の場合⇒日数を変えるなどして小数点を繰り上げる方法がない場合のみ全量から少数点第3位を切り捨てて調剤する。 ※ただし内服テストは除く。 ・ 複数の薬品を同じ薬包紙に計り取る盛り量りは行わない。取り過ぎた薬品は初回のみ装置瓶に戻しても良い。 ・ 以下の場合には、電磁式精密はかりを使用する。賦形は精密天秤を用いる必要はない。 <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム顆粒 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>賦形剤が必要となり分包数が6包以下の場合には1回分ずつ秤量、賦形、分包。 小数点第3位までの秤量が必要な場合は全量を秤量し、賦形、分包。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同一Rp.内にある散剤は、薬品同士を組み合わせ散剤とする。ただし、以下の薬品は必ず単味で調剤する。 イスコチンつぶし、クラリスロマイシンD.S、ジプレキサ細粒、セロクエル細粒、チラーヂンつぶし、デパケン細粒、フロモックス細粒、メイアクト細粒、 酸性薬剤（アスピリン、アスコルビン酸、エチゾラムつぶし、カルバゾクロムスルホン酸Naつぶし、シナール配合顆粒、セルシンつぶし、チザニジンつぶし、バイアスピリンつぶし、パンビタン） ・ ヒート製剤とバラ製剤を採用している散剤は、ヒート製剤を優先して使用する。 ・ ヒート製剤のみを採用している散剤は、原則として分割調剤しない。ただし、一部漢方薬等では小児用に粉碎入力にて端数調剤を行う。 ・ 抗悪性腫瘍剤を秤量した乳鉢・乳棒は他の薬品の混合には使用しない。

2	賦形	賦形剤は通常乳糖を使用する。ただしスコチンつぶし、ミルラクト、チラーヂンつぶしはバレイショデンプンを使用する。フロモックス細粒、漢方薬、ヨウ化カリウム（患者限定薬）は賦形しない。賦形量は以下の表に従う。								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>1日服用回数</th> <th>賦形量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1回および屯用</td> <td>1回あたり0.2gまで賦形</td> </tr> <tr> <td>2回、3回、4回、5回</td> <td>1日あたり0.5gまで賦形</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>1日あたり1gまで賦形</td> </tr> </tbody> </table>	1日服用回数	賦形量	1回および屯用	1回あたり0.2gまで賦形	2回、3回、4回、5回	1日あたり0.5gまで賦形	6回以上	1日あたり1gまで賦形
		1日服用回数	賦形量							
		1回および屯用	1回あたり0.2gまで賦形							
		2回、3回、4回、5回	1日あたり0.5gまで賦形							
6回以上	1日あたり1gまで賦形									

【3】散剤特殊指示（ニュウトウキン、フケイナシ、テブンポウ）

番号	項目	具体的内容
1	内容	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー患者などでコメントがある場合は以下のとおり調剤する。
2	手順	<ul style="list-style-type: none"> ニュウトウキン バレイショデンプンで賦形し分包機で分包する。分包前、分包後に重曹で掃除をする。
		<ul style="list-style-type: none"> フケイナシ 賦形剤を加えず、分包機で分包する。分包前、分包後に乳糖で掃除をする。
		<ul style="list-style-type: none"> テブンポウ 洗浄・乾燥後の乳鉢・乳棒を使用し賦形剤を加えず、パイルパッカーにて分包する。

【4】錠剤粉砕		
番号	項目	具体的内容
1	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ成分の散剤の採用がない場合には、粉砕入力ができる。ただし、製剤的に安定でない場合、徐放錠等の製剤的工夫のある製剤、口腔内崩壊錠、中身の成分に刺激性がある製剤、抗がん剤等で安全性の担保ができない製剤などは除く。 ・ 錠剤、カプセル剤を粉砕して、散剤とする場合に粉砕指定が入力される。
2	粉砕手順	<ol style="list-style-type: none"> ① 錠剤は粉砕機または乳鉢にて粉砕、カプセル剤はカプセルを外す。 ② 必要に応じ、賦形する。(賦形量については散剤秤量手順を参照)
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ エンドキサンの粉砕；エンドキサンは、加熱により揮発の可能性があるため、粉砕を要する場合には、分包紙に1回量ずつ錠剤をいれ、分包紙の上から砕く。 ・ 漢方薬、スーグラ錠、スー ज्याヌ配合錠、プレマリン錠、マドパー配合錠の粉砕時には、「吸湿性に注意」の説明書を添付する。 ・ 酸性薬剤を粉砕する前後は、乳糖で粉砕機を掃除する。 ・ ペンタサ顆粒 ペンタサ顆粒は小腸・大腸などの下部消化管で放出されるよう製剤設計されているが、上部消化管病巣の抗炎症効果を期待して、コーティングを破壊するために粉砕指示で処方されることがある。医師の処方意図に応じて対応する。

内用液剤

【5】単味かつ原液で投与する液剤とその調剤		
番号	項目	具体的内容
1	主な調剤方法と薬剤	<ul style="list-style-type: none"> NICU、GCU の内用液剤は全て単味かつ原液で調剤する。投薬時の残差分が多数であるため、払い出しの際に、処方量の 1.5 倍程度の量とする。 外来・退院処方では計量カップまたはスポイドを添付する 1 回服用量が整数にならない場合医師に照会し、変更不可の場合は、小数点以下第 1 位を切り捨てとするもの アルロイド G 内用液、イトラコナゾール内用液、シアナマイド内用液、トリクロロールシロップ、ジメチコン内用液、モニラックシロップ（小児科・小児外科限定、ml 単位処方） 1 回服用量が整数にならない場合、小数点以下第 2 位を切り捨てとするもの (NICU、GCU はこの限りではない) KCL エリキシル、アルファロール内用液（専用遮光瓶使用）、インクレミンシロップ、エルカルチン FF 内用液（小児限定、ml 単位処方）、ザイザルシロップ、バルプロ酸ナトリウムシロップ、フェノバールエリキシル
2	ファンギゾンシロップ	<ul style="list-style-type: none"> 調剤規約【9】 ファンギゾンシロップの払い出し方法 参照
3	ヘマンジオールシロップ	<ul style="list-style-type: none"> 専用のピペットを使用し、専用ボトルに分注する。 患者用に専用ピペットを 2 本つけて払い出しを行う。 払い出し総量が 110mL 以上 120mL 以下であれば 120mL の製品 1 本で払い出す。
4	必ず予包剤を使用する液剤	<p>イソバイドシロップ、エビリファイ内用液、エルカルチン FF 内用液 5mL/包、オプソ内服液、カリメート経口液、ケイツーシロップ、サムチレーン内用懸濁液、ネオオーラル内用液、ピコスルファートナトリウム内用液、モニラックシロップ 10mL/包（院外専用薬）、リスパダール内用液</p> <ul style="list-style-type: none"> これらは分包品を外して調剤することはない。


【6】希釈する液剤の調剤

番号	項目	具体的内容										
1	調剤方法	<ul style="list-style-type: none"> 「単味かつ原液」の項に記載のない液剤は、希釈調剤する。 年齢別 1日分希釈総量の目安（1日3回の場合） <table border="1" data-bbox="667 338 1315 589"> <tr> <td>3ヶ月未満</td> <td>10 mL</td> </tr> <tr> <td>1才未満</td> <td>15 mL</td> </tr> <tr> <td>1~6才未満</td> <td>30 mL</td> </tr> <tr> <td>6~15才未満</td> <td>60 mL</td> </tr> <tr> <td>15才以上</td> <td>100 mL</td> </tr> </table> 上記目安に従って、投薬瓶の最も近い目盛に合わせて希釈する。 投与回数が1日3回以外の場合には、希釈総量を比例計算して調節する。 例：成人 1日2回の場合 ⇒ 1日希釈総量 67 mL に近い目盛で希釈する。 希釈には精製水を用いる。 	3ヶ月未満	10 mL	1才未満	15 mL	1~6才未満	30 mL	6~15才未満	60 mL	15才以上	100 mL
3ヶ月未満	10 mL											
1才未満	15 mL											
1~6才未満	30 mL											
6~15才未満	60 mL											
15才以上	100 mL											

【7】特殊な調剤方法の液剤

番号	項目	具体的内容
1	矯味用単シロップ	<ul style="list-style-type: none"> 散剤と混和し矯味として用いるために使用する場合がある。 単シロップのみ別の Rp. とする。 小児科で処方されている場合には、ラベル・薬袋の1回量、日数は消し「医師の指示通り」と記入する。 薄めず原液のまま調剤する。
2	ネオーラル内用液	<p>Rp. ネオーラル内用液（50mL） 1本 1日〇回</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記のように 50mL 単位で必要総数を処方入力する。 投与日数は入力しない。 小児の処方の場合、計量ピペットを小児用と交換して払いだす。

【8】ファンギゾンシロップの払い出し方法

番号	項目	具体的内容								
1	規約	<p>原液調剤</p> <p>《成人》</p> <p>1回服用量が0.5mL単位（0.5mL、1mL・・・）以外の場合には問い合わせをし、変更してもらう。（量り取ることができないため。）</p> <p>《小児(12歳以下)》</p> <p>1回服用量が整数にならない場合、小数点以下第2位は切り捨てとする。</p>								
2	秤量方法	<p>原液で総量を量り取る。ただし、スポイトの形状を考慮して、以下のように払い出す。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; width: 80%;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">秤量方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">総量 1～20mL</td> <td style="text-align: center;">投薬瓶</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">総量 21～24mL</td> <td style="text-align: center;">ファンギゾン瓶1本(24mLの表示を消す)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">総量 24mL以上</td> <td style="text-align: center;">瓶+投薬瓶</td> </tr> </tbody> </table> 	秤量方法		総量 1～20mL	投薬瓶	総量 21～24mL	ファンギゾン瓶1本(24mLの表示を消す)	総量 24mL以上	瓶+投薬瓶
秤量方法										
総量 1～20mL	投薬瓶									
総量 21～24mL	ファンギゾン瓶1本(24mLの表示を消す)									
総量 24mL以上	瓶+投薬瓶									
3	添付するもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス製のスポイド（プラスチック製は付着して吸い取れないので不可） ・カップ（10mL以上の容量があるもの） ・説明書 								
4	患者案内	<p>参考：スポイトを1回ぐっと押すと、だいたい1ml量り取れる。瓶をよく振ること。</p> <p>指示された量をきっちり使用しなくても、許容範囲であることを患者に説明してもよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center;">ファンギゾンシロップの飲み方</p> <p>必ず、瓶をよく振ってから、はかりとってください。</p> <p>1回量を口の中に十分行きわたらせてから、飲み込んで下さい。</p> <p>うまくいかない場合には、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①1回量を付属のカップに量り取る。 ②10ml程度の水で薄める。 ③口の中に十分に行きわたらせてから、飲み込む。 </div>								

外用剤

【9】外用薬の処方箋表記								
番号	項目	具体的内容						
1	日数・回数処方と全量処方	<p>処方箋表記は下表のように設定されている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>具体例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【日数処方または回数処方】 外用薬のうち、 ①1個ずつ、1枚ずつの管理が可能かつ ②1日または1回の使用量を指定することで個数・枚数を管理できるもの</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・坐薬 ・注入軟膏 ・膣錠、膣坐剤 ・浣腸薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬)) ・貼付剤の一部 (フランドルテープ、ホクナリンテープ、フェントステープ等) ・注腸薬 </td> </tr> <tr> <td> <p>【全量処方】 上記以外の外用薬 (1個の容器になっていて複数回使用する外用薬、分けて使用する外用薬)</p> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・点眼薬 ・眼軟膏 ・点耳薬 ・点鼻薬 ・塗布薬 (軟膏等) ・消毒薬 ・噴霧薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬) 以外) ・貼付剤の一部 (湿布薬全般) ・含嗽薬 </td> </tr> </tbody> </table>	区分	具体例	<p>【日数処方または回数処方】 外用薬のうち、 ①1個ずつ、1枚ずつの管理が可能かつ ②1日または1回の使用量を指定することで個数・枚数を管理できるもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・坐薬 ・注入軟膏 ・膣錠、膣坐剤 ・浣腸薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬)) ・貼付剤の一部 (フランドルテープ、ホクナリンテープ、フェントステープ等) ・注腸薬 	<p>【全量処方】 上記以外の外用薬 (1個の容器になっていて複数回使用する外用薬、分けて使用する外用薬)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点眼薬 ・眼軟膏 ・点耳薬 ・点鼻薬 ・塗布薬 (軟膏等) ・消毒薬 ・噴霧薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬) 以外) ・貼付剤の一部 (湿布薬全般) ・含嗽薬
区分	具体例							
<p>【日数処方または回数処方】 外用薬のうち、 ①1個ずつ、1枚ずつの管理が可能かつ ②1日または1回の使用量を指定することで個数・枚数を管理できるもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・坐薬 ・注入軟膏 ・膣錠、膣坐剤 ・浣腸薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬)) ・貼付剤の一部 (フランドルテープ、ホクナリンテープ、フェントステープ等) ・注腸薬 							
<p>【全量処方】 上記以外の外用薬 (1個の容器になっていて複数回使用する外用薬、分けて使用する外用薬)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点眼薬 ・眼軟膏 ・点耳薬 ・点鼻薬 ・塗布薬 (軟膏等) ・消毒薬 ・噴霧薬 ・吸入薬の一部 (ウルティプロ、エナジア、オンブレス、シーブリ (院外専用薬)、スピリーバ吸入用カプセル (院外専用薬) 以外) ・貼付剤の一部 (湿布薬全般) ・含嗽薬 							

【10】計数調剤(外用軟膏)

番号	項目	具体的内容																				
1	計量軟膏	<ul style="list-style-type: none"> 薬品名ラベルを軟膏容器の本体及び蓋に貼付、使用期限ラベルを本体側面に貼付する。 軟膏（小分け・MIX）の使用期限は調剤日より6ヵ月とする。 																				
	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> フェノール亜鉛華リニメントはパラフィン紙を蓋の間に挟む。 																				
2	軟膏容器の選択	<p>下表に従い、使用する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">軟膏壺選択表</th> </tr> <tr> <th>処方量</th> <th>軟膏壺</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1~20g</td> <td>20g</td> </tr> <tr> <td>21~30g</td> <td>30g</td> </tr> <tr> <td>31~50g</td> <td>50g</td> </tr> <tr> <td>51~100g</td> <td>100g</td> </tr> <tr> <td>101~150g</td> <td>100g+○g</td> </tr> <tr> <td>151~200g</td> <td>100g×2 個</td> </tr> <tr> <td>201~250g</td> <td>100g×2 個+○g</td> </tr> <tr> <td>251~300g</td> <td>100g×3 個</td> </tr> </tbody> </table>	軟膏壺選択表		処方量	軟膏壺	1~20g	20g	21~30g	30g	31~50g	50g	51~100g	100g	101~150g	100g+○g	151~200g	100g×2 個	201~250g	100g×2 個+○g	251~300g	100g×3 個
軟膏壺選択表																						
処方量	軟膏壺																					
1~20g	20g																					
21~30g	30g																					
31~50g	50g																					
51~100g	100g																					
101~150g	100g+○g																					
151~200g	100g×2 個																					
201~250g	100g×2 個+○g																					
251~300g	100g×3 個																					

【11】計数調剤(外用液剤)

番号	項目	具体的内容											
1	外用液剤	<p>① 小分けが必要な場合は褐色瓶、ローション瓶を用いる。</p> <p>② 瓶には、処方番号・患者氏名等記載されたシール、使用期限ラベルを貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用期限は下記のように設定する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>薬品名</th> <th>使用期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">分注・小分け</td> <td>外用液剤 分注</td> <td>調剤日より6ヵ月</td> </tr> <tr> <td>消毒薬 分注</td> <td>調剤日より4週間 (※調剤日当日含む)</td> </tr> <tr> <td>処方時調製*</td> <td>うがい用キシロカイン液</td> <td>2週間</td> </tr> </tbody> </table> <p>*調剤規約【12】外用液剤約束処方 参照</p>		薬品名	使用期限	分注・小分け	外用液剤 分注	調剤日より6ヵ月	消毒薬 分注	調剤日より4週間 (※調剤日当日含む)	処方時調製*	うがい用キシロカイン液	2週間
			薬品名	使用期限									
分注・小分け	外用液剤 分注	調剤日より6ヵ月											
	消毒薬 分注	調剤日より4週間 (※調剤日当日含む)											
処方時調製*	うがい用キシロカイン液	2週間											
2	注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 吸入液や消毒薬などの外用液剤を小分けする際は、褐色瓶の蓋に「外用薬」「吸入液」「消毒薬」と印字されたシールを貼る。 											

【12】外用液剤約束処方

番号	項目	具体的内容
1	うがい用キシロカイン液 500ml	4%キシロカイン液 3ml 滅菌精製水 500mL (入力単位：本)
	調製法	① 滅菌精製水 500mL に 4%キシロカイン液を 3ml 加える。 ② 水剤ラベル・使用期限のラベルを貼る。(使用期限：2 週間) ※2週間分を超えて処方がある場合、2週を超える分については外用褐色瓶にキシロカイン液3mL を分注し、滅菌精製水500mL 1 本と輪ゴムでセットにして払い出す。窓口で調製方法について患者に説明する。

その他

【13】在宅自己注射製剤		
番号	項目	具体的内容
1	院外処方箋で払い出し可能な在宅自己注射薬	<ul style="list-style-type: none"> ・針・注入器一体型製剤は院外処方可能（一部例外あり） ・インスリン（プレフィルド製剤のみ）、GLP-1受容体作動薬

【14】個別に注意が必要な薬剤		
番号	項目	具体的内容
1	カバサール錠	10錠ヒートは遮光袋のまま調剤し、端数ができた時は専用の袋を添付し、端数錠を袋に入れる。患者にその旨を説明し保管に注意を促す。
2	エフメノカプセル	光に不安定のため専用の遮光袋を使用。監査者が遮光袋に入れて払い出し。
3	カバサール錠 ビ・シフロール錠	他剤がすべて散薬の場合、溶解方法の説明書を添付する。 これらの薬剤は高い吸湿性のため、粉碎調剤はできないが、容易に水に溶ける旨の説明書。

【15】 付属品を要する薬剤の調剤

番号	項目	具体的内容										
1	吸入薬	<p>特定の付属品があるものは、以下に従って添付する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤</th> <th>付属品</th> <th>添付タイミング</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ウルティプロ エナジア オンプレス</td> <td>吸入器</td> <td>外来処方 30 日ごと</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤	付属品	添付タイミング	ウルティプロ エナジア オンプレス	吸入器	外来処方 30 日ごと				
薬剤	付属品	添付タイミング										
ウルティプロ エナジア オンプレス	吸入器	外来処方 30 日ごと										
2	説明書の添付	<ul style="list-style-type: none"> 特徴的な包装変更があった場合は、変更を知らせる説明書を薬袋に入れ、3ヶ月間継続する。 特に服用上の注意や副作用を知らせることが望ましい薬剤には、薬袋に説明書を添付する。 <p><説明書を添付するか否かの基準></p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>使い方の説明</td> <td>薬を使用する際に必要な情報は添付する。</td> </tr> <tr> <td>服用時間の説明</td> <td>服用タイミングに必要なコメントは処方時に入力してもらうため、添付しない。</td> </tr> <tr> <td>疾患の説明</td> <td>添付しない。</td> </tr> <tr> <td>副作用の説明</td> <td>以下のものは説明書を添付する。 <ul style="list-style-type: none"> イエローペーパー、ブルーレター、適正使用情報にあがった事項で、メーカーが作成しているもの ハイリスク薬で注意が必要なもの。 『警告』のついている副作用でメーカーが作成しているもの </td> </tr> <tr> <td>尿、便の着色</td> <td>添付する。</td> </tr> </tbody> </table>	使い方の説明	薬を使用する際に必要な情報は添付する。	服用時間の説明	服用タイミングに必要なコメントは処方時に入力してもらうため、添付しない。	疾患の説明	添付しない。	副作用の説明	以下のものは説明書を添付する。 <ul style="list-style-type: none"> イエローペーパー、ブルーレター、適正使用情報にあがった事項で、メーカーが作成しているもの ハイリスク薬で注意が必要なもの。 『警告』のついている副作用でメーカーが作成しているもの 	尿、便の着色	添付する。
使い方の説明	薬を使用する際に必要な情報は添付する。											
服用時間の説明	服用タイミングに必要なコメントは処方時に入力してもらうため、添付しない。											
疾患の説明	添付しない。											
副作用の説明	以下のものは説明書を添付する。 <ul style="list-style-type: none"> イエローペーパー、ブルーレター、適正使用情報にあがった事項で、メーカーが作成しているもの ハイリスク薬で注意が必要なもの。 『警告』のついている副作用でメーカーが作成しているもの 											
尿、便の着色	添付する。											

【16】 疑義照会

番号	項目	具体的内容
1	疑義照会先	外来診療科へ直接電話連絡してください。
2	疑義照会の内容の連絡	疑義照会后、処方訂正があった場合には、訂正内容を FAX (0562-93-4537) してください。
3	疑義照会簡素化プロトコルについて	<p>調剤上の典型的な変更に伴う疑義照会を減らし、患者への薬学ケアの充実および処方医や調剤薬局の負担軽減を図る目的で運用しています。</p> <p>詳細は、藤田医科大学病院 HP (医療関係者の方へ>院外処方せんを応需される調剤薬局の方>疑義照会簡素化プロトコルについて) をご確認ください。</p>

2019年9月 初版
2020年12月 一部改訂
2023年7月 一部改訂